

ヴォルコシガン・シリーズ『名 誉のかけら』のあらすじとメモ

takaidos

あらすじとメモ

ロイス・マクマスター・ビジョルド
1986年。

小木曾絢子・訳。
1997年10月。

SFというより、スペースオペラ・ファンタジー。
そのままRPGやアドベンチャーゲームのシナリオにもなる。

会話や展開は良心的。
コニー・ウィリスと同様、ストーリー、会話をよどみなく伝えるストーリー・テラー。

マイルズの母親と父親の出合いの話。

絶対につづきを読みたくなる。

★★★★

<目次>

<登場人物>

コーデリア・ネイスミス中佐:ベータ植惑星天文調査隊長、のち大佐。調査艦レネイ・マグリート号。天文製図技師。33歳。β。

デュボア少尉:コーデリアの部下。植物学者。β。

レグ・ローズモント:コーデリアの古参の部下。死亡。地質学者。β。

スチューベン中尉:コーデリアの部下。β。

ウラリー:軍医。β。

アラール・ヴォルコシガン大佐:バラヤー帝国艦艦長。のち准将から摂政。祖父はバラヤー、母はベータ星出身。母方の祖父はクサブ・ヴォルバーラ王子という外交官。44歳。父はヴォルコシガン国守。コマールの殺し屋(惑星コマールを平和裡に占領出来たがバラヤー中央政府が虐殺してしまい、ヴォルコシガンがやったとされた)。柔道。11歳でユーリ・ヴォルバーラの内乱で母と叔父を殺される。18歳で軍役に就く。

ラドノフ:アラールの部下。政治士官。スパイ。アラールの敵。

コラビック・ゴッチャン:アラールの副長。

センズ:ラドノフ部下。

ダロベイ:通信部でラドノフのスパイ。

コンスタンチン・ボサリ軍曹:憎むのが楽しみ。アラールを裏切りデュボアを撃った。

コウデリカ少尉:アラールの腹心の部下。のち中尉。摂政の秘書に。

バッファ:親アラールの部下。

ニレサ:給食担当の下士官。

タファス:親アラールの部下。

アステリーデ・ヴォルカロネル少佐:アラールの副長。

パーネル:エスコバールにプラズマ・ミラーを運んだ時のコーデリアの部下。

ジェス・ヴォルラトイェル提督:アラールの政敵。変質者。アラールの敵。

セルグ・ヴォルバーラ皇太子:バラヤー皇太子。帝国軍司令官。

シモン・イリヤン大尉:皇帝直属の保安要員。機密保安庁士官。鮮明記憶バイオチップ埋め込み。

ネグリ大佐:イリヤンのボス。皇帝身辺警護。皇帝の次に力を持つ？皇帝の左腕。親アラール。

グリシュノフ大臣:政治教育大臣。アラールの敵。皇帝の右腕。

ラルフ・ヴォルハーラス提督:アラールの同僚？親アラール。

ヴォルターラ国守:自由主義政党。老齢。エスコバール戦後、新首相に。

マーシャ・アルフレディ中尉:ベータの女性。調査惑星で捕虜になっていた。

カウア准将:アラールの部下。

ジョーン・スプレイグ:エスコバールの心療カウンセラー。

フィリップ・グールド:大統領報道官。

ベータ植民惑星大統領:堅実フレディ。

ドクター・メータ:遠征軍医療部精神科医。

ビル・テイラー准将:コーデリアの上官。

エレナ・ボサリ:ヴォルラトイェル提督からボサリが保護した黒髪のエスコバール女性。

ユーリ・ヴォルバーラ皇帝:老齢で親族に疑念を抱き虐殺、内乱を招いた。アラールの母と叔父も

殺された。

クサブ・ヴォルバーラ:ヴォルコシガン国守とクサブ王子でユーリの内乱に反撃。

エザール・ヴォルバーラ皇帝:現バラヤー皇帝。自身亡き後をヴォルコシガンに託す。

ヴォルダリアン:軍の支持がある。

クインテラン内相:国内事情通。ヴォルが付いていないため国守の支持が得られない。

グレゴール王子:エザールの孫。亡きセルグの息子？

ヴォルラキアル:戦術家。

カンジアン:戦術家。

ドルカ・ヴォルバーラ正義帝:ヴォルコシガンの曾祖父。

ファルコ・フェレル:エスコバール。操縦士。バラヤー エスコバール120日戦争後、遺体回収。

ターサ・ボニ:エスコバール。メドテク。遺体回収。自分の娘シルヴァを探し当てる。

艦名

調査艦レネイ・マグリート号:ベータ星所属。コーデリアの船。

ヴォルクラフト将軍号:アラールが艦長を務める船。

ドレッドノート:コーデリアがエスコバールに新兵器を投下する時に使った艦。

<あらすじ>

ある惑星に地質調査に来ていたベータ植民惑星のコーデリアたちは、バラヤー帝国軍の襲撃を受ける。

気を失って気がつく、バラヤーの艦長アラール・ヴォルコシガンに助けられていた。

彼も味方に裏切られて殺されそうになっていた。

2人と神経破壊銃で心神喪失したコーデリアの部下を連れて、バラヤーの補給倉庫に向かい、アラールは指揮権を取り戻し、シャトルで艦に戻る。

コーデリアは新しいワームホールがその惑星とエスコバールの間に開かれていることを知る。

バラヤーがエスコバールを征服しようとするれば、自分の植民惑星ベータも戦乱に巻き込まれてしまう。

しかしコーデリアの部下たちがコーデリアを救助するために惑星に戻り、そこでアラールを始末

しようとしたラドノフを助けてしまう。

アラールはコーデリアに結婚を申し込む。

ラドノフはシャトルで艦に戻り、反乱を指揮するが、コーデリアの活躍で失敗。

コーデリアは救援に来た仲間たちとシャトルで脱出する。

数ヶ月後。

コーデリアたちは新兵器をエスコバルに投下するが、バラヤー艦に捕まってしまう。

そこでアラールの政敵ヴォルラトイェル提督に捕まってしまうが、ボサリはコーデリアを守るために提督を殺す。

そこへアラールが現れて再会。

アラールは自室にコーデリアとボサリを匿う。

アラールの政敵ヴォルバーラ皇太子は武勇を見せようと、旗艦に乗ってエスコバルに降下するが、コーデリアたちが投下した新兵器プラズマ・ミラーで消滅してしまう。

戦闘宙域で最高指揮権を握ったアラールは撤退命令を下す。

コーデリアたちはかつてアラールと会った新惑星の捕虜収容所に入れられる。

アラールはコーデリアに今回のエスコバル戦は皇帝による、反皇帝・皇太子派一層が目的だったと知らされる。

皇太子のほかゴッチャン、ヴォルハーラス含む5千人が犠牲になった。

アラールとコーデリアは結婚について話す。

軍医のメドテクが17個の人工子宮を運んで来る。

エスコバルからバラヤーに送り付けられた私生児。

アラールは軍医にヴォルバーラ・サルターナの帝国軍病院に運ぶように命じる。

コーデリアはベータ星に帰還して大統領、家族、大衆に迎えられるが、マスコミの捏造に怒って勲章を投げ捨て大統領を蹴ってしまう。

医療部のメータが来て、コーデリアを調べるが、アラール・ヴォルコシガンに好意的なコーデリアを彼らは強力なマインド・コントロールに掛けられていると考え強制的に入院させようとする。

コーデリアは自宅を脱出し貨物用シャトルでエスコバルまで密航する。

バラヤーに到着したコーデリアはヴォルコシガンに会いに行き、結婚する。

皇帝は政治教育大臣グリシュノフを粛清。

ボディガードとなったボサリを伴って帝国軍病院に神経破壊銃でやられたコウデルカのお見舞い

に行く。

そして人工子宮を管理する研究棟に行き、エスコバール人エレナの赤ん坊に会う。

首都ヴォルバール・サルターナではヴォルターラ国守が新首相となり、皇帝の遣いとして来てヴォルコシガンに来て欲しいという。

皇帝に頼まれ、ヴォルコシガンは摂政になる。

軍病院に行き、コウデルカを中尉に昇進させ、秘書にする。

戦争のあった宙域。

操縦士ファルコ・フェレルと軍医のターサ・ボニは漂う遺体の回収をする。

ターサは自分の娘の遺体を回収できた。

<メモ>

スタナー:スタンガン?

神経破壊銃:

プラズマ・アーク銃:

音波手榴弾:

ワームホール・ネットワーク

投影機:宇宙空間に立体映像を投影できる。

プラズマ・ミラー:ベータ星開発。敵戦艦のビームをそのまま跳ね返す。

フロート・パレット:人工子宮。

コードライト:

ヴォル:バラヤーの戦士階級。

メドテク:軍医。医療技術兵。

惑星コマーレ:関税25%など不労所得で肥え太っていたが、ヴォルコシガン率いるバラヤー軍が攻略した。

惑星バラヤー:

新惑星:コーデリアとアラールが初めて会った星。バラヤーとエスコバールの間のワームホール中継点。

惑星エスコバール:

植民惑星ベータ:コーデリアの出身惑星。

タウ・セチ第五惑星:

ジャクソン統一惑星

地球:

・文明は女たちが必要に迫られて発明した。道具もない原始的な状態で穴居人の女たちが家族の世話をしている様子を想像できない。

・憎むのも楽しみ。

・若者。うまく使われているだけだが、自分たちは万物の支配者と思っている。